

令和2年度 徳島県立池田高等学校(全日制) 学校評価計画表

重点目標	重点課題	活動計画	評価指標			
1	学ぶ意欲と自主的に学習する習慣を育て「確かな学力」を身につけた社会で自立できる人間を育成する。	① 家庭学習時間の確保と学習の習慣化	1 家庭学習時間調査週間を設け、一週間を通じた生徒の学習時間を把握し、家庭学習時間が確保できるよう指導に努める。	全生徒の平均家庭学習時間 2時間以上		
			2 予習・復習のための週末課題を提供し、自主的・計画的に学習させ、家庭学習の習慣化を図る。	生徒アンケート「出題された課題が成績向上に役に立った」80%以上		
		② 基礎基本の徹底と学習意欲の喚起	1 各教科において確認テスト・小テストを行うとともに、授業理解を促進させるワークシート等を開発・提供する。	生徒アンケート「確認テスト・小テスト・ワークシートが役に立った」80%以上		
			2 生徒の興味・関心を高める教材の開発とともに、探究的学習や課題解決的な学習活動の展開を図り、生徒の学習意欲喚起に繋げる。	生徒アンケート「進路実現に向けて学習意欲が高まった」80%以上		
		③ 学習と部活動の両立への支援	1 部活動生徒理解懇談会を開催し、生徒の学習習慣や成績向上について教職員の共通理解を図る。	部活動生徒理解懇談会の開催回数 年1回		
			2 定期考査前に部活動の練習時間短縮や勉強会を行い、学習時間を確保して学習習慣の定着を図る。	生徒・部活動顧問アンケート「定期考査前に生徒の学習時間が確保できた」80%以上		
		④ 各種検定試験の受験奨励と対策	1 英語検定・漢字検定などの各種検定の受験を奨励し、学力の向上を図る。	英語検定・漢字検定などの各種検定の受験率 前年度比3%以上増		
			2 漢字テストの予習・復習プリントを提供し、漢字テスト優秀者の割合を増加させる。	全10回の漢字テストのうち、合計90点以上の生徒の割合20%以上		
		⑤ 教員の授業力向上と学習指導方法の改善	1 年2回の授業公開週間や研究授業の授業参観を通して、教員の授業力向上を図る。	教員アンケート「授業力向上に授業公開や研究授業を役立てることができた」80%以上		
			2 各教科で教科会を定期的に開催するなどして、学習指導方法の改善について検討する。	教員アンケート「学習指導方法の改善を実践することができた」80%以上		
		⑥ 地域と連携した教育の推進	1 地域の専門家を招き、地域をテーマとした探究活動を通して、地域の人材活用を図る。	地域を課題とした探究活動の実施テーマ数 5つ以上		
			2 課題研究集録を発行したり、校外に向けて活動内容を公表することを通して、地域に開かれた学校づくりを推進する。	課題研究集録の発行 年間1冊 校外に向けて活動内容を公表 1グループ		
		⑦ 図書館の有効活用と読書活動の推進	1 館外展示や読書会を通して、多くの生徒に池田図書館と読書の魅力を伝え、図書館利用の習慣がない生徒が来館するきっかけを作る。	館外展示 年1回以上 読書会 年1回以上		
			2 図書委員による興味・関心と企画力を活かした展示・行事を行う。	図書委員主導による展示または行事 年1回		
2	高い志を持って将来への夢と希望を育て、生徒一人ひとりの能力や適性に応じた進路目標の実現を図る生徒を育成する。	① 進路意識の高揚	1 進路課が発行する『進路の手引き』をホームルーム活動や面談に活用し、進路意識の高揚に努める。	『進路の手引き』のホームルーム活動や面談での活用回数 年1回以上		
			2 進路ガイダンス・進路講演会を有効的に活用し、生徒の進路意識の高揚につなげる。	生徒・教職員アンケート「進路ガイダンス・進路講演会が役に立った」80%以上		
		② きめ細かな進路相談の実施	1 個別面談を適宜実施し、生徒が進路について具体的・主体的に考え行動する姿勢を育てる。	個別面談の実施回数 年3回以上		
			2 三者面談や進路保護者会を実施し、保護者の進路に対する要望の把握に努める。	保護者アンケート「三者面談で担任は保護者の意見や相談を聞いてくれた」80%以上		
		③ 体系的な進路指導の推進	1 総合的な学習の時間やホームルーム活動等において、段階的・系統的な進路指導を実践する。	生徒アンケート「総合的な学習の時間が進路選択に役に立った」80%以上		
			2 年度初め・年度末に進路課会・学年会を開催し、3年間を通じた系統的・計画的な進路指導ができる方策をまとめる。	教職員アンケート「3年間を通じた系統的・計画的な進路指導ができている」80%以上		
		④ 進路の早期決定と進路室の有効活用	1 各学期に進路希望調査を実施し、進路の早期決定と計画的・意欲的な学習への支援を促進する。	教員アンケート「進路希望調査を進路指導に生かすことができた」80%以上		
			2 進路室の情報提供機能を充実させるとともに、昼休み・放課後・休日等にも開放し、利用者数の増加を目指す。	生徒アンケート(3年)「進路室を年3回以上利用した」80%以上		
		⑤ 校内課題テストの充実と校外模試の活用	1 校内課題テストについて、出題方法や内容を工夫し、学力向上に繋げるとともに、進路指導に活用する。	教員アンケート「校内課題テストの出題で工夫した」80%以上		
			2 校外模試を学力向上に繋がるよう活用するとともに、データの分析結果を進路指導に生かす。	学年または教科での学力検討会の実施回数 各学期1回以上		
		⑥ 進路情報をはじめとした本校教育活動の情報発信	1 『進路の手引き』や『進路ニュース』を発行し、本校生の活動状況や卒業後の進路を生徒・保護者・関係中学校等に情報発信する。	進路の手引きの発行 年1冊		
			2 ホームページの更新を積極的に行い、最新の情報提供に努める。	ホームページの更新回数 月平均15回以上		
		3	自尊感情と規範意識の醸成に努め、基本的生活習慣を確立するとともに、心身ともに健康でたくましい生徒を育成する。	① 人権意識の涵養と高揚	1 「池高人権の日」を設定し、日常生活の中で生徒の人権意識が涵養するように努める。	啓発プリントを用いた人権委員によるホームルーム啓発回数 年10回以上
					2 人権学習ホームルーム活動や人権講演会・人権意見発表会などを実施し、人権意識が高揚するよう内容の充実を図る。	生徒アンケート「人権学習ホームルーム活動などにより人権意識が高揚した」80%以上
② 生徒の悩み・いじめ・問題行動の早期発見と適切な対応	1 特別支援教育の視点を大切にして、相談箱の設置や教育相談日の設定を行い、担任・各学年・各課が連携して組織的に対応する。			生徒・保護者アンケート「相談に学校は誠実に対応してくれている」80%以上		
	2 生徒理解懇談会の開催や生徒生活意識調査の実施により、いじめ等の問題行動の未然防止や早期発見への取組、問題行動が発生した際の迅速かつ適切な対応に努める。			生徒生活意識調査の実施回数 年3回		
③ 基本的生活習慣の確立と爽やかな校風の継承	1 毎日校門前で登校指導を実施し、挨拶の励行や遅刻の防止など、基本的生活習慣の確立を図る。			1日当たりの遅刻者数 生徒数の0.15%以内		
	2 服装・頭髪等の身なりや礼儀について常時指導を行い、爽やかな校風の継承・発展に努める。			教職員アンケート「服装・頭髪の指導に効果が現われている」90%以上		
④ 交通ルール遵守と交通安全意識の向上	1 自転車・原付等の通学別生徒集会を開催するとともに、日ごろのホームルーム活動で交通マナーや安全運転の指導を行う。			通学別生徒集会の開催回数 年3回以上		
	2 毎月20日を学校安全の日とし、交通安全意識を向上させるとともに、街頭交通指導を実施する。			街頭交通指導の実施回数 月1回		
⑤ 健康教育の推進と救急処置体制の確立	1 定期健康診断結果を担任・養護教諭が共有し、生徒の健康教育の推進や治療の促進を図る。			『保健だより』の発行回数 年10回以上		
	2 AEDを含む救急処置実技講習会を実施するとともに、事故発生時の対応マニュアルの周知徹底を行う。			教職員アンケート「AEDを使用した救急処置ができる」100%		
⑥ 健全な心身を育成する部活動の推進	1 生徒が自主的・積極的に部活動に参加し、知・徳・体のバランスがとれた成長が促せるよう指導する。			部員アンケート「充実した部活動を送ることができた」80%以上		
	2 部活動中における事故や怪我への対応方法・連絡体制について、全教職員が理解し、対応できるようにする。			教職員アンケート「事故への対応方法・連絡体制を理解している」100%		
⑦ 校内美化の徹底とエコ活動の推進	1 全校生徒が清掃に取り組むよう、全教職員による清掃指導を行い、快適な学習環境の整備に努める。			生徒・教職員アンケート「生徒は真面目に清掃に取り組んでいる」80%以上		
	2 新学校版環境ISOの取組を通してゴミの分別を徹底するとともに、地域環境美化活動等を行い、エコ意識の高揚を図る。			生徒・教職員アンケート「ゴミの分別ができている」80%以上		
⑧ 安全・安心な学校環境の提供と防災意識の向上	1 校内巡視を日々行って危険箇所等を把握し、安全・安心な学校環境の提供に努める。	校内巡視の実施回数 1日3回以上				
	2 防災に関する研修会や防災訓練を通して、生徒の防災意識を向上させるとともに、災害遭遇時の対応等を身につけさせる。	防災に関する研修会開催回数 年2回以上 防災訓練の実施回数 年2回以上				
4	職員のワークライフバランス実現のために、働き方改革への推進を図る。	① 勤務時間の管理と意識改革	1 夏季休業中の学校閉庁日を設定し活用する。	教職員アンケート「夏季休業中の学校閉庁日を設定し、活用できている」80%以上		
			2 ノー部活デーを月1回以上設定する。	教職員アンケート「ノー部活デーを月1回以上設け、活用できている」80%以上		
			3 半日単位や時間単位の休暇の利用を促進する。	教職員アンケート「半日単位や時間単位の休暇の利用ができている」80%以上		
		② 業務改善の推進と外部人材等の活用	1 会議の精選や会議時間の短縮を推進する。	教職員アンケート「会議の精選や会議時間の短縮が図られている」80%以上		
			2 スクールカウンセラー等、専門家との連携をする。	教職員アンケート「スクールカウンセラー等」との連携が図られている」80%以上		